

<b>第2回・第1期第2回宝塚市協働のまちづくり推進会議 議事録</b>	
開催日時	令和5年（2023年）12月19日（火）18：30～20：10
開催場所	第2庁舎 会議室A・B
次 第	1 開会 2 アイスブレイク 3 議事 (1) 本会議の愛称について (2) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施 について 4 その他 5 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、上田委員、前菌委員、岡田委員、橋之爪委員、
開催形態	公開（傍聴人2名）

### 1 開会

事務局から、本日の出席者は10名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則（以下「規則」という）第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は2名であることを報告した。

### 2 アイスブレイク

2グループに分かれてアイスブレイク（無人島の告知）を行った。

### 3 議事

#### (1) 本会議の愛称について

事務局より資料に基づき説明を行い、2グループに分かれて意見出しを行った。その後、グループで出た意見について意見交換を行った。

ア（グループ1）「いいね」を「いいねえ」とすればもう少し柔らか味が出るのではないかという意見が出た。協働をローマ字やカタカナ、平仮名にしてはどうか。グループとして意見がまとまったというよりは、意見出しで終わった。ロゴマークについて、市がまちキョンというキャラクターを作っているなのでそのキャラクターを使って、いいねという看板を掲げるなどしてロゴマークを作ったらどうかと意見が出た。

イ（グループ2）色々な愛称の意見が出た。例えば、この会議はいつも18時30分から始まるので「TK1830」。10人の会議なので「10人の侍」。「いいね！協働会議」は少し長いなということで「いいね会議」などが出た。第一候補として、宝塚、コラボ、ラボラトリーをぐっと圧縮して「タコラボ」。これが言いやすい、「タコラボ行こうよ。」など。少しカジュアルでとっつきやすいので、このグル

ープの第一候補になった。ロゴマークについては、グループ1と同じで、まちキョンにいいねマークという意見が出た。

ウ (会長) たくさんの意見が出たと思うが、何か意見があれば意見交換したい。グループ1では、「協働って難しい言葉だが、なかったら何かわからないよね。」という話で、協働という言葉をつけるかつかないか議論になった。活動している人は、協働が何かわかるが、活動していない人はわからないのではという話があってつけるかつかないか話をした。

エ 協働会議が画数多くて固い感じがするという話をした中で、協働をカタカナにするなどの話が出たが、そもそも、協働がわかるのか問題。活動していない人には、パッと見て何の話かわからないよなというのを考えると、個人的には「タコラボ」は凄くかわいいし、コラボというのも伝わりやすいかなと思った。

オ (会長) 「タコラボ」にまた一票入った。わかりやすいし、かわいらしいですねという話だったかと思う。グループ2はもう「タコラボ」推しか。

カ 色々な意見が出た中で、1つだけでなく2つ3つくらい決めようかという話で、第一候補が「タコラボ」、第二候補が「いいね会議」という話になった。ロゴマークは、まちキョンを使おうという話になった。「タコラボ」とカタカナで表現するのか、「タ・コラボ」などにするか。要するに、コラボレーションという協働が入っていて、かつ推進会議の中で皆さんと知恵を出し合いながらしているので研究室みたいな意味合いもあるのかなと思う。表現の仕方は色々あるが、ネームとしては「タコラボ」が一押しになった。

キ (会長) 「タコラボ」いい感じ。グループ1の皆さんも頷いている。「いいね」は入れるか。「いいねタコラボ」にするか、しないか。

ク 「いいね」は入れずに、ロゴマークでまちキョンと一緒に「いいね」を入れて、意味を推測してもらったらどうか。

ケ (会長) 言葉で入れるよりかは、ロゴマークで表現するということですね。グループ1はいかがか。皆さん納得しているようだが、何か意見があれば。

コ あまりこだわっていないので、それでいい。

サ (会長) 「タコラボ」いいですね。ロゴマークはまちキョンといいねマーク。まちキョンって凄くかわいいなという話が出て、まちキョンを使って、いいねマークの看板を持っている感じがいいのではないかという話が出たので、それもできるかなと思う。では決まりました。「タコラボ」いいね！これから使っていきたいと思う。愛称が決まった。

## (2) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施 について

事務局より資料に基づき説明を行い、2グループに分かれて意見出しを行った。その後、グループで出た意見について意見交換を行った。

ア (グループ2) ターゲットは60代。いわゆる企業人から卒業して10年間。現役の方もいれば、完全に身体があいている方もいる。地域社会の中で活動者を見ると、60代が極端に少ない現状がある。ターゲットを60代にして取り組む

ということが1つ。もう1つは子育て世代。地域の中で確実にいる。子育て世代の方についても、何らかのかかわりを持っていく。この2つの視点を持って、地域の中で交流するということがあれば、何か役に立ってくれるのではないかとこのところ。

- イ (グループ1) 世代は絞れていないが、ターゲットはこういった活動に興味はあるがまだ関わっていない人。そこから世代を絞るかどうかはこれからという感じ。恐らく、全く興味がない人を集めても全然進まないし、既に活動がつつりしている方にセミナーをしてもあまり広がってはいかない。少しはいるであろう「興味はあるけどどうやって関わったらいいのだろう」、「まちづくり協議会とはなんぞや」、「どこに行ったらいいの」みたいな人が関わるきっかけを作れたらなというところ。そういった人たちが本当にやりたいことを自由にできる、こちらがこれをやれというのではなくて自主的に楽しんだり、楽しみ方を知ったり、まちを面白がるというか権限を与えて活動ができる場を作っていくというイベントになったらなという話になった。
- ウ (会長) 2つの意見を聞いて、何か思いつく意見や質問など、意見交換をしたいと思う。
- エ 実際の地域の中で、ここ数年開発されてきた住宅地においての若い方の意識として「自治会は要らないのではないか」「コミュニティ要らないよね」ということで、自治会がスタートした時には300世帯以上あったのが、現在150世帯と半分に減ってしまっているところがある。そういうところは、自治会に期待しない、コミュニティに期待しない、かかわりも必要ではない、自分たちのことは自分たちでできるし市にも自分たちで言っていく、という感覚の方も多くおられるのが現実。そこを考えたの対応をしないと、空振りに終わっちゃうというふうに危惧している。
- オ (会長) コミュニティも含めて自治会に加入しない人が増えてきている中で、自治会に加入することを求める人を増やしていきたいということ。宝塚市はかなり加入される方が少ないのか。
- カ (事務局) 55%くらい。
- キ 加入率に関しては、5割強くらいだが、自治会の加入者が減っている理由の1つは、自治会に入っていた人が高齢になって役もできない、施設に入るなどでその地域活動に来られないと抜ける方と、もう一方で、加入する人にとってみたら、「自治会に入らなくてもいいのではないか」「自治会って何してるの」という考え方を持っている方がいる。抜ける人もいれば、新しく入る人も少ない。問題は、先ほど発言があったように「自分のことは自分でできる」、そういう人はある面で迷惑をかけている。その辺のところをわかっただけではない。例えば、市民一斉清掃。市のやり方の問題もあるかもしれないが、「参加する団体は届け出てください」だからほとんど自治会しかない。自治会あるいはボランティア団体でやりましょうという団体は届け出ているが、個人でやりますよ

という人もいない。掃除する当日、スポーツクラブとか野球の方は熱心だが、市が呼びかけている一斉清掃には参加されない方もいる。自治会がなくてもいいという考え方の人にとって、誰の恩恵で綺麗なまちに住んでいるのか、そういったところの認識というのは少し欠けているのかなと思う。先ほどおっしゃったように、関心はあるけれどなかなか関わっていないといったところも狙わないといけないし、本当に自治会がなくなったらどうなるのかといったところに考えてもらう機会を作っていく方法もあるのかなと思う。

ク 私が同世代の人と話したり、SNS を見たりしている印象としては、今キ委員がおっしゃったような話は、若い人はみんな市役所がしていると思っている。行政がしていると思っている、身近な人がしてくれているという感覚はまずない。基本的には働いていて、活動してくれている時間帯にいなかったり、実際にそれを見る機会がなかったり、掲示板に貼っている情報は読まなかったりするし、まずそういうところにそんな情報があることを知らなかったりする。あんまり見ていない。結局、そういうつながりがないからというのもあるが、そういう印象。公助がなくなったら自身に返ってくるということなど、そういうことはみんなまず認識がないし、いつまでも行政がやってくれると思っていると思うので、その辺は危機感の前段階というか、むしろみんな知らないので、教えてあげる。そういう機会が今はまずない。それを知る機会がない。本当に周りの若い世代はみんな、「そんなことは市役所に言えばいい。」という意見しかまず出てこない。そういう現実はあると思う。

ケ (会長) 今の話でもいいし、他のことでもいいので何かご意見があれば言っていただければと思う。ターゲットとテーマ、今回実施方法まで皆さん話が行かなかったと思う。

コ 問題点は色々言うが、10年前からこの話は一緒。解決方法を考えてきて、やらないと実施方法は決まらない。だから、「なんとか自分たちでこういうことをしたいな」というのなら、「こういうことをやってみては」という提案がなければ、アクションできない。現状把握のところは、みんな一緒。人がいないとか、自治会が何をしているかわからないとか、そういう現状把握はできているのだから、どうやってアクションするかということを書いてもらいたいと思う。

サ (会長) グループ1内で、ヒントとしてお話して下さった「場を提供したらどうか」という話もある。話をお願いしてもいいか。

シ 子育て世代や勤労世代の方々にあるイベントの場を提供することで、「自分たちでこういうことができるんだ」という実感を持ってもらうために1つのイベントを行った。そこで驚いたのは、若い方の力ってすごいなと。ものすごいパワーを持っている。そのイベントは、若い方の発案でその人たちが企画して実行するという企画だったので、私が知らないPTAの保護者、地域の活動者の方、そういった方が自主的に「私はマルシェでこういうお店を出したい」、「私はマルシェで子どもたちを集めてこんなマルシェにしたいんだ」と、全部実行して

もらった。その結果、私の実感としては、こういう場を与えていくことが、例えば会場だったり、日にちだったり、こういうことに向けて「皆さん頑張っ  
てね」と言っていただけだったが、見事にこういうことができるんだなとわかつた。だから、年寄りだけで担い手がないとか言っている場合ではなくて、どうやって担い手を増やすか。子どもをダシにして保護者を引っ張ってくるとか、子どもたちを集めることでPTAが参加するとか、そういう仕掛けだけを作って活動しないといけないなということを実感した。

ス (会長) かかわる場を作るだけで、人が集まってくるようにするという感じか。どんなふう  
に場を作っていきのかっていうのもみんな考えて実行するという。よくある「企画だけ偉い  
さんが作りました、はい実行してね」ではだめだろうという話。一緒に企画というか、この  
場をどう利用しようか、何をしようかというところまでして、それで成功したという話。  
イベントはちなみにマルシェか。どんなイベントだったのか。

セ 第1地区というエリア、その中には5つのまちづくり協議会がある。つまり、5つの  
小学校、自治会が31ある。それに社会福祉協議会の方々にも入っていた。「まず子ども  
を集めよう」と、どうするかというと子どもたちに各小学校校区から、ゴミを拾いなが  
ら歩いて人権文化センターまで集まってもらう。ゴミ拾いがテーマ。ゴミ拾いをしなが  
らやってきて、その子どもたちをホールに集めて、表彰式と宝塚市のゴミの関係の話をし  
てもらうという策略で、保護者プラス子どもたちが参加した。それから、会場の中で、「  
マルシェをしよう」と。マルシェの中身については、皆さんで自主的にやってもらった。  
「我々は場代をとるのではなく、場所を提供するので、皆さんが持ち寄って何かをして  
ください」と。そういうことでできたのが、子どもマルシェ。子どもたちの不用品を  
集めてきて売るとか。「私たちはおにぎりを作りたいので」と、おにぎりを販売する  
とか、そういうマルシェを何店舗か出した。それから、地域で活動している子どもの  
音楽隊。その音楽隊に5つほど来ていただいて演奏をする。そういうことをしたおかげ  
で、我々責任者側は、見守っているだけにした。自分で先頭に出ていくことはない。  
会場側には、例えば地域福祉課が担当してくれたり、キッチンカーを呼んだのでその  
後援は市民協働推進課がしてくれたりした。お天気にも恵まれ、みんな楽しそうに  
してくれていた。だから、何か場を与えれば、「私たちそこで何かができる」という  
実感を掴んでもらえた段階なので、これをどうやって続けていこうかなというのが  
今の我々の1つ考えないといけないなと言っているところ。この内容はざっくばら  
んに、自治会連合会のMy たからづかという広報誌の1月に出る。そこに書いてある  
ので、興味のある方は読んでみてもらえたら。

ソ (会長) 詳しくお話くださりありがとうございました。そういう場をデザイン  
する、場を作るという話だったと思う。他に何かそういう今回のイベント企画にお  
いて、意識啓発というと上から目線かもしれないが、自然と自主的に動

くという話があったのでそういうふうになればいいよねと思うが、いかがか。他に何かそういうターゲットやテーマのイベントはあるか。今回は、ターゲットはある程度考えられると思う。2つのグループでは最初はターゲットを、活動に興味はあるけれどもまだ活動していない人たちを対象にするというのは、グループ2はどう思うか。グループ2でも同じかなと思うのは、企業を退職された方。これからする人か、それともある程度10年くらい経つてと話があったと思うが。

タ 最近の60代は、企業を退職されて悠々自適な生活をされる方もいれば、一方で働かざる負えない方もいらっしゃる。現状として考えればむしろ、後者の方が多いのではないか。現役を引退されて、地域に来られるという期待感が地域にあったとしても、そういう方が多くない。でも、フルに働く方もいればそうでない方もいる。そういう人たちにとって、1つ出たのが健康保険証をこの講座に参加しなければもらえませんよというような形でしたら、健康保険証イコール地域活動をすることによって健康寿命が延びるという話になると思う。いわゆる運動・食事、それからもう1つ健康寿命を延ばすのが社会参加。ソーシャル・キャピタルという話があるが、それをしてもらうことによって仕事も大事だけれども、やはり地域とつながって地域活動をすることによって、健康寿命が延びますよというような1つの動機づけというのも、今回の協働の説明会で取り上げてもいいのでは。そうすると、自分で地域で活動すること以外何か参加したい、結構、社会福祉協議会がしている zukavo でも何かやりたいという方でボランティアをいろいろと学ばれている方もいるが、一方でそれを提供する場というのも我々は作っているが、やはりそれに合わない方もいる。そういう面では60歳代をターゲットにするということは、会社を辞めてしまって何もすることはないが何かきっかけ作りという形の中で、こういったことをすることによって気持ちが変わってくれたらなというのがある。昔は会社を辞めたらすぐに地域へ出たが、今はそういう状況ではない。一番可能性が高いのは60代。先ほど、グループ1からも話があったが、表現は悪いがなかなかどうやってかかわったらいいかわからないというのは、危機感を持たせないといけないし、一方でやってみて、例えばPTAの活動をした時にやりがいがあったと、そういった体験をまた地域でも持てたらという2つのパターンがある。危機感を持たしていくことによって、地域活動に入りやすい環境を作ると、もう1つはやりがいがあった人をターゲットにしていく。前回の会議でも出たように、強制的ではなくてその人がやりたいような形で進めていくということも考えていけないといけない。それをこれからやっていく市民説明会の中で色々混ぜながらやっていったらどうかと思う。それから、実施方法の話も少ししたが、今までの方法はどちらかというと事例発表が中心だったが、ワークショップ形式の中で自分の不安などを出しながらやっていく、そこから方向性を見つけ出すやり方の方がいいのかなと思っている。

チ (会長) グループ 1 でも出たが、やはり当事者というか自分事にしていかないといけないという話。これは 2 つくらいターゲットが出てきているが、1 回、2 回と回数は特に決まっていないのか。

ツ (事務局) これまでの実績で言うと、テーマを設定して実施するのは毎年大体 1 回。細かく説明するセミナー的なもの、小さい規模のものを併用して年 2 回するパターンも今までにはあった。コロナでずっと止まっていたが、これまではずっと毎年継続していたので、例えば「今回はこのテーマでやろう。次は、もう 1 個出ていたテーマでやろう」というように、今後継続して何個も何個も色々なものを試してみる、色々実施してみるというのもアリかと思う。

テ (事務局) 時間も過ぎているので、今日いただいた意見をまた次回の会議でも振り返りながら、ターゲットとテーマと色々出た意見をまとめた資料にさせていただいて次回の会議で披露していただいてもいいと思う。

ト (会長) たくさん意見が出たので、もう一度これを整理していただいて、また次の会議で色々意見をいただけたらと思う。

- 4 その他  
特になし。
- 5 閉会

以 上